

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-190	12-089	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
題名 (原題/訳)		
<p>Nondisclosure of HIV infection to sex partners and alcohol's role: a Russian experience.</p> <p>セックスパートナーへの HIV 感染の非公開とアルコールの役割：ロシア人の研究</p>		
執筆者		
Lunze K, Cheng DM, Quinn E, Krupitsky E, Raj A, Walley AY, Bridden C, Chaisson C, Lioznov D, Blokhina E, Samet JH		
掲載誌		
AIDS Behav. 2013 Jan;17(1):390-8.		
キーワード		
HIV、アルコール、セックス		
要 旨		
<p>目的：</p> <p>セックスパートナーへの HIV 感染の非公開は安全なセックス交渉を障害となり、HIV 感染リスクを高める。非公開の決定過程におけるアルコール使用の役割は広く検討されていない。本研究はアルコール使用とセックスパートナーへの HIV 感染の非公開との関連を評価した。</p> <p>方法：</p> <p>対象者はロシアのサンクト・ペテルブルクの HIV に感染した飲酒者</p> <p>結果：</p> <p>およそ半分の人々 (317/605; 52.4%) が感染を認知してからパートナーへ HIV 感染を公開していないと報告した。三つに分けた GEE ロジスティック回帰モデルを使用した結果、アルコール依存、過去 30 日間の危険なアルコール使用、または過去 30 日間のセックス時のアルコール使用と過去 3 ヶ月の非公開との間に有意な関連は観察されなかった (それぞれ AOR[95%CI]0.81[0.55-1.20], 1.31[0.79-2.17], 0.75[0.54-1.05])。セックス時のアルコール使用は、HIV 感染一致のパートナー及び成り行きパートナーに対する非公開のオッズ比の減少と関連した。非公開と関連する要因は成り行きパートナー、HIV 感染不一致のパートナー、複数のセックスパートナー、1 年以内の HIV 診断の認知、生涯の性感染症の既往歴であった。</p> <p>結論：</p> <p>セックスパートナーへの HIV の状態の非公開は、HIV に感染したロシア人では一般的であるが、アルコールは非公開の予測因子とはならなかった。</p>		